

論 文

身近な実物資料を教材とした「歴史」教育法

Methods of History Education Using Familiar Authentic Materials

宮瀧 交二

Koji MIYATAKI

Key words : 歴史教育, 実物資料, 郵便切手, 紙幣, 駅弁

はじめに

歴史学は、言うまでもなく、過去の人々が文字によって遺した文書・記録等の文献史料(史料)や、過去の人々の生活を直接にうかがうことが出来る考古資料や民俗資料等(資料)の調査・研究成果に基づいて、過去の事実、すなわち歴史的事実(史実)を解明する学問である。中学校や高等学校の「歴史」教育の現場にあって、単に教科書から調査・研究成果としての史実を学ぶだけではなく、その根拠となった具体的な史・資料を参照することによって、生徒がより一層理解を深めながら授業が行われることが望ましいと言えよう。このような考え方は決して目新しいものではなく、既に現役の中学校・高等学校の先生方によって日本史教材の入手・活用方法をまとめた書籍も刊行されている(宮内ほか 1988年, 阿部 1998年)。しかしながら、これまで紹介されてきた教材の多くは、なかなか入手が困難なものや高価なものが多く、教師もまたこれらを簡単に準備することは容易ではなかった。

そのような中、筆者はかつて、大東文化大学文学部教育学科が小学校・幼稚園教諭の免許取得を目指す学生を対象として設置している必修・選択科目「社会1(歴史)」の授業を担当し、児童の身近にある実物資料を教材とした授業について受講生とともに考える機会に恵まれた。小稿では、その際の経験を発展させ、中学校社会(歴史的分野)の授業を想定し、生徒がより一層理解を深めながら史実を学ぶことが出来るような、ごく身近に

あって入手し易い実物資料を教材とした授業の展開モデルを呈示してみたい。

1. 使用済み郵便切手から学ぶ近・現代の日本と世界

使用済み郵便切手を用いた近・現代史の授業を実施する際には、その予定日の約1ヶ月ほど前から、生徒に、家庭にある郵便物から使用済み郵便切手を封筒から切り抜いて持参するよう呼び掛けておく。仮に30人学級で各生徒が10枚の使用済み郵便切手を持参したと仮定すれば、合計で約300枚ほどの使用済み郵便切手が集まることになる。おそらくその3分の2にあたる約200枚は、圧倒的に数多く使用された定型郵便物の82円普通切手(ウメ)や52円普通切手(ソメイヨシノ)、あるいはそれ以前に用いられていた定型郵便物の80円普通切手(ヤマセミ, キジバト)や50円普通切手(メジロ, オシドリ)になると予測されるが、残り3分の1にあたる約100枚は、様々な記念・特殊切手になると思われる。そしてその中には、〇〇「××周年」を記念して発行された記念切手が含まれると思われ、まずはこれを用いた授業を試みたい。

今回、先に掲げたような30人学級での使用済み郵便切手の回収を想定して、拙宅の郵便物から記念・特殊切手100枚を選んでみたところ、その中には〇〇「××周年」を記念して発行された記念切手が、以下のとおり10枚含まれていた。発行年順に掲げると以下のとおりである(写真1 上段左から発行年順)。なお、それぞれの切手についての更に詳細な情報を知りたい場合には、カ

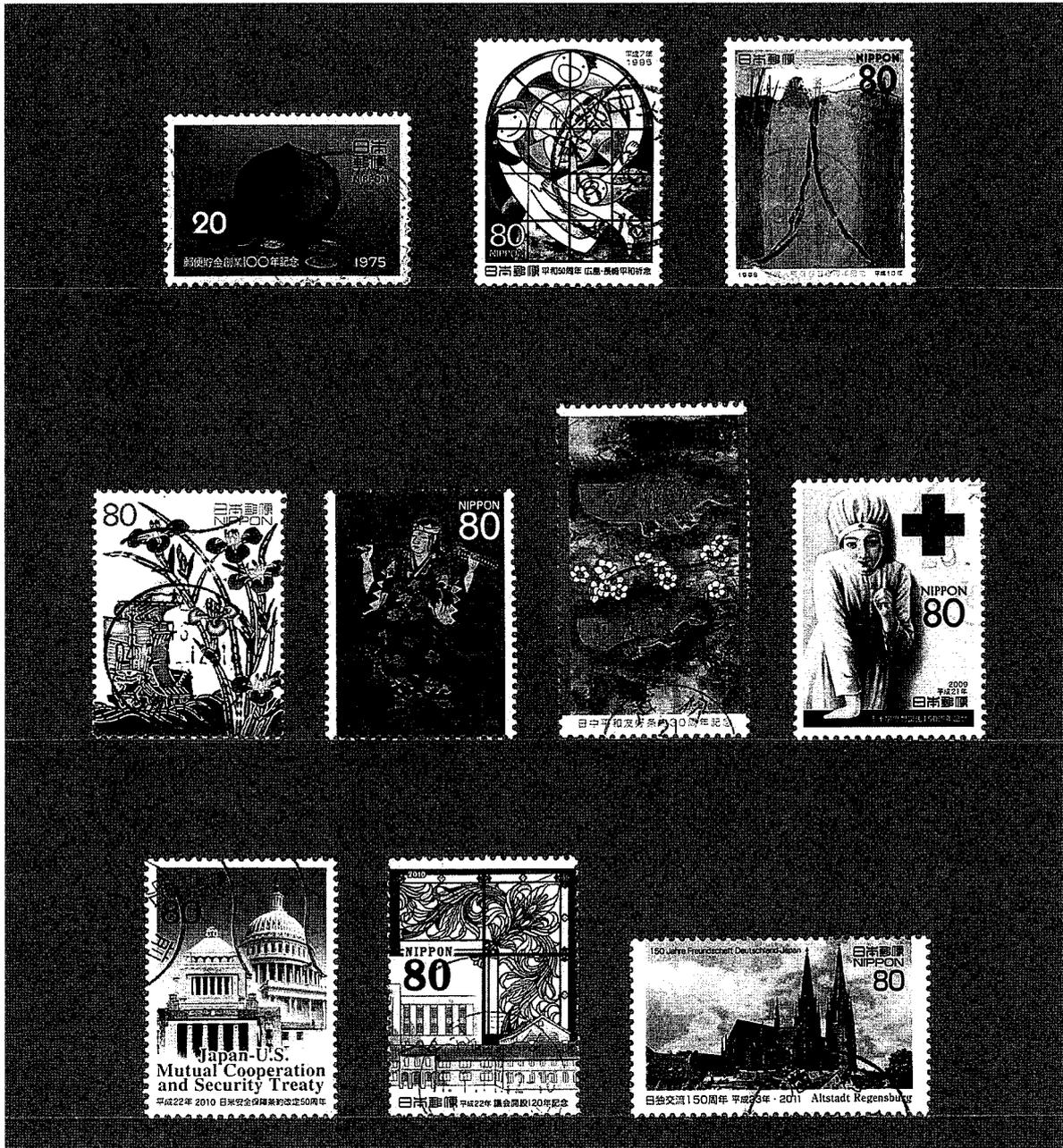


写真1

タログを利用するとよい(公財・日本郵趣協会 2016年)。

- ・「郵便貯金創業100年記念」(1975年発行)
- ・「平和50周年 広島・長崎平和記念」(1995年発行)
- ・「世界人権宣言50周年記念」(1998年発行)
- ・「沖縄復帰30周年記念」(2002年発行)
- ・「歌舞伎発祥400年記念」(2003年発行)
- ・「日中平和友好条約30周年記念」(2008年発行)
- ・「赤十字思想誕生150周年記念」(2009年発行)
- ・「日米安全保障条約改定50周年記念」(2010年発行)
- ・「議会開設120年記念」(2010年発行)
- ・「日独交流150周年」(2011年発行)

次に生徒は、個々の切手から、それぞれの出来事が実

際に生じた年を計算する作業に取り掛かる。すなわち、「郵便貯金創業100年記念」切手が発行されたのは1975年であるが、1975年に100周年を迎えたということは、郵便貯金制度の誕生は1975年の100年前、すなわち明治8(1875)年のことではないかと推測出来る。ここで生徒は、中学校社会(歴史的分野)の教科書や、日本史年表、日本史事典等を用いて史実を確認する作業に進む。実際に確認してみると、確かに我国の郵便貯金制度は、イギリスに倣ってこの年に創設されている(朝尾ほか 1996年)。こうして先の10枚の切手に記された出来事が実際に生じた年を年代順に並べると、以下の通りになる(括弧内は切手名)。

- ・慶長8 (1603) 年 出雲阿国が京都で歌舞伎踊を初演 (「歌舞伎発祥400年記念」)
- ・1859年 スイスの実業家、アンリ・デュナンが赤十字思想を提唱 (「赤十字思想誕生150周年記念」)
- ・万延元 (1861) 年 日本とプロイセンが修交通商条約を締結 (「日独交流150周年」)
- ・明治8 (1875) 年 郵便貯金制度を創設 (「郵便貯金創業100年記念」)
- ・明治23 (1890) 年 第一回帝国議会を開会 (「議会開設120年記念」)
- ・昭和20 (1945) 年 広島・長崎が被爆し、ポツダム宣言を受諾 (「平和50周年広島・長崎平和記念」)
- ・昭和23 (1948) 年 国連総会が世界人権宣言を採択 (「世界人権宣言50周年記念」)
- ・昭和35 (1960) 年 日米安全保障条約 (改定新条約) を調印 (「日米安全保障条約改定50周年記念」)
- ・昭和47 (1972) 年 沖縄が日本復帰 (「沖縄復帰30周年記念」)
- ・昭和53 (1978) 年 日中平和友好条約を調印 (「日中平和友好条約30周年記念」)

第一番目の「出雲阿国が京都で歌舞伎踊を初演」から三番目の「日本とプロイセンが修交通商条約を締結」までは近世の出来事であるが、こうして生徒は、使用済み郵便切手を調べることから「日本近・現代の政治・文化史年表」を作成することが出来るのである。

この年表は、偶然手にした記念切手から作成したものであるため、日本近・現代の政治・文化史の総体を示すものとはならず、取り上げられた出来事は、断片的な内容にとどまるものでしかない。しかしながら、

- ・明治23 (1890) 年 第一回帝国議会を開会 (「議会開設120年記念」)

は、『中学校学習指導要領』第2章第1節社会〔歴史的分野〕2-(5)-ウ「議会政治がはじまる」に、

- ・昭和20 (1945) 年 広島・長崎が被爆し、ポツダム宣言を受諾 (「平和50周年広島・長崎平和記念」)

は、同2-(5)-カ「大戦が人類全体に惨禍を及ぼした」に、

- ・昭和35 (1960) 年 日米安全保障条約 (改定新条約) を調印 (「日米安全保障条約改定50周年記念」)

- ・昭和47 (1972) 年 沖縄が日本復帰 (「沖縄復帰30周年記念」)

は、同2-(6)-ア「我が国の民主化と再建の過程」に、

- ・昭和53 (1978) 年 日中平和友好条約を調印 (「日中平和友好条約30周年記念」)

は、同2-(6)-イ「国際社会において我が国の役割が大きくなってきた」に、それぞれ該当する出来事であり、教科書に記された内容を理解するための大きな一助となるものである。また、生徒は自らが持参した教材、すなわち使用済み郵便切手の内容を自らが調べることにより、それぞれの出来事を印象的に理解・記憶することが出来るであろう。加えて、この授業を契機に、今後このような記念切手を見る度に、自然とその切手がどのような出来事に因んで発行されたものなのか、関心を持つようになるのではないだろうか。

また、記念・特殊切手100枚の中には、以下のような歴史上の人物を取り上げた特殊切手も3枚含まれていた(写真2 上から発行年順)。

- ・「北里柴三郎 KITASATO SHIBASABURO 1853~1931」(2003年発行)
…細菌学者・北里柴三郎 [嘉永5 (1853) 年~昭和6 (1931) 年]
- ・「小泉八雲 LAFCADIO HEARN 1850~1904」(2004年発行)
…英文学者・小説家 [嘉永3 (1850) 年~明治37 (1904) 年]



写真2

- ・「第1回野口英世アフリカ賞記念」(2008年発行)
…細菌学者・野口英世[明治9(1876)年～昭和3(1928)年]

このような歴史上の人物(政治家・文化人等)を描いた特殊切手はこの他にも数多く発行されており、人物切手についても、先の記念切手と同様に、生徒に中学校社会(歴史的分野)の教科書や、日本史年表、日本史事典等を用いて調べさせてもよいであろう。

どの家庭にもある身近な、そして無料の歴史教育教材としての使用済み郵便切手を用いた中学校社会(歴史的分野)の授業は、小稿で掲げた以外にも、教師の創意工夫によって、更に広がりを持つ可能性があると思われる。

2. 紙幣から学ぶ歴史上の人物

次に取り上げる、中学校社会(歴史的分野)の授業に役立つ、身近にあって入手し易い実物資料教材は、私たちが日頃、何気なく使用している紙幣である。

まず始めに、日頃私たちが使用している紙幣にはどれだけの種類があるのかを生徒に質問する。おそらく、1000円札、5000円札、10000円札の3種類が回答されると思われるが、ここに2000円札が加わるかもしれない。

次に、それぞれの紙幣にはどのような図柄が描かれているかを質問する。おそらく生徒から正確な回答は得られないと思われるが、それぞれの図柄は、

- ・1000円札… [表面] 野口英世肖像
[裏面] 逆さ富士(山梨県・本栖湖からの富士山の眺め)、桜
- ・2000円札… [表面] 沖縄県那覇市・守礼門
[裏面] 『源氏物語絵巻』第38帖「鈴虫」(光源氏と冷泉院)、紫式部肖像
- ・5000円札… [表面] 樋口一葉肖像
[裏面] 尾形光琳『燕子花図』
- ・10000円札… [表面] 福沢諭吉肖像
[裏面] 京都府宇治市・平等院鳳凰堂の鳳凰像

である。これを生徒に呈示した後、生徒は、中学校社会(歴史的分野)の教科書や、日本史年表、日本史事典、そしてインターネット等を用いて、その詳細を調べる作業に着手する。班分けをして、各班ごとに紙幣を分担するのも良いであろう。

また、このような作業の前に、生徒が紙幣に興味を持つようないくつかのエピソードを教師が紹介することも、学習意欲の醸成という観点から効果的である。例えば、

- ①各紙幣には「1000YEN」のように、日本の通貨単

位である「円」のローマ字表記が「EN」ではなく「YEN」と表記されている。これは、西洋人が「EN」を発音すると「えん」ではなく「いん」に近いものになるので、子音の「Y」を付けて「YEN」としたものだ。幕末に日本を訪れた外国人の中には「江戸」を「YEDO」と表記したものがある(日本銀行情報サービス局 2007年)。また、筆者の経験では、生徒もよく知っている身近な事例としてエビスビールの缶を持参し、「YEBISU」の表記を見せたところ、大変喜ばれた。

- ②紙幣の図柄としては、人物の肖像がよく描かれるが、これは、歴史上の人物等を描くことによって親しみを持ってもらうこともあるが、最も大きな理由としては、偽造防止効果があるためとのことである。紙幣の肖像は、専門技師が手彫りで描く凹版印刷によるものであり、その繊細で緻密な表現は、コピー等では再現することが出来ないという技術的な観点の一つである。また、私たちは一般に、見慣れた人物の表情に少しでも変化があると違和感を抱くので、肖像が描かれていた方が偽札に気づきやすいという(同)。

- ③紙幣に最も多く登場している人物は聖徳太子で、戦前に2回、戦後に5回、合わせて7回登場している(同)。長く1万円札に描かれていたことから、世間では年配者が1万円札のことを「聖徳太子」と言うことすらあることを付言してもよいであろう。

等である。筆者の経験では、こうしたエピソードの披露は学生たちに喜ばれ、かれらの興味を授業に惹き付ける上で大いに役立ったことを記しておきたい。

さて、日本の現行紙幣に中学校社会(歴史的分野)の教科書に登場するような歴史上の人物の肖像が採用されているように、世界各国の紙幣にも、同様にその国にゆかりの歴史上の人物の肖像が採用されている。そこで教師は、予め用意しておいた、授業で使用している中学校社会(歴史的分野)の教科書に登場している人物が描かれている他国の紙幣を生徒に配付する。世界各国の紙幣は、デパートの切手・コイン売り場等で安価に購入することが可能である。ここでは、筆者が監修に加わった教科書である『ともに学ぶ人間の歴史 中学社会(歴史的分野)』(学び舎)に登場する3名の人物の肖像を描いた紙幣を参考に掲げてみたい(写真3)。

- ・写真上は、西インド諸島のバハマ国の1ドル紙幣である。描かれているのは、1492年に同国の中部東端に位置するサンサルバドル島に上陸したイタリアの航海者、



写真3

クリストファー・コロンブス（1446年？～1506年）である（『ともに学ぶ人間の歴史 中学社会（歴史的分野）』では、第3部・近世、第4章・世界がつながる時代、（1）大西洋の東と西—スペインの中南米征服—に登場）。

・写真中は、アメリカの5ドル紙幣である。描かれているのは、アメリカ合衆国第16代大統領、エイブラハム・リンカーン（1809年～1865年）である（同、年表[巻末]に登場）。

・写真下は、インドの10ルピー紙幣である。描かれているのは、インドの民族運動指導者・思想家、マハトマ・ガンディー（1869年～1948年）である（同、第5部・二つの世界大戦、第8章・帝国主義の時代、（10）独立マンセー—民族運動の高まり—に登場）。

生徒はそれぞれの人物について、やはり中学校社会（歴史的分野）の教科書や、世界史年表、世界史事典、そしてインターネット等を用いて調べる作業に着手する。ここでも、班分けをして、各班ごとに紙幣を分担するのも良いであろう。

更に機会があれば、遠足や校外学習等の機会を利用して、

・日本銀行・金融研究所 貨幣博物館

103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-1

日本銀行分館内 03-3277-3073

9：30～16：30、月曜日休館（祝日の場合は開館）、無料

地下鉄半蔵門線「三越前」駅徒歩1分

・独立行政法人・国立印刷局 お札と切手の博物館

114-0002 東京都北区王子1-6-1 03-5390-5194

9：30～17：00、月曜日休館（祝日の場合は開館し翌日休館）、無料

JR京浜東北線「王子」駅徒歩5分

といった博物館に生徒を引率するのも有意義である。

3. 駅弁掛紙から学ぶ戦時下の国民生活

『中学校学習指導要領』第2章第1節社会〔歴史的分野〕2-(5)-カには、「戦時下の国民生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過（中略）を理解させる」とあるが、この課題の学習に際して、極めて効果的な実物資料教材に、戦時下の駅弁掛紙がある（宮瀧2015年）。

まず授業の冒頭で、生徒に「好きな駅弁はありますか？」と尋ねてみたい。おそらく、群馬県横川駅の「峠の釜めし」や、神奈川県横浜駅の「シウマイ弁当」などの名前が挙がるのではないだろうか。今日、全国各地で売られている駅弁の紙容器や掛紙には、御当地の名所旧跡の風景や、蟹や牛肉、山菜や松茸など地域を象徴する海の幸、山の幸などが描かれた華やかなものが多く、蓋を開けると何が顔を出すのか胸躍るものが多い。ところが、戦時下の駅弁掛紙の中には、兵隊や爆撃機等、直截的に戦争関連の意匠を描くものや、戦時標語に溢れたものなど軍事色の強いものが多く、旅の楽しさや、食事の楽しさといったものとは無縁のものが少なくない。ここでは、そのような戦時下の駅弁掛紙を象徴する3枚の掛紙を取り上げてみたい。なお、こうした戦時下の駅弁掛紙は、神田神保町の古書店やデパートで開催される古書市、そしてインターネットオークション等で購入することが可能である。実物が入手出来ない場合には、こうした掛紙の写真を掲載した書籍を、各地の書店やインターネットショップで購入することが可能である（上杉2009年、上杉2011年）。

まず写真4は、愛知県・名古屋駅の「御弁当」の掛紙である。スタンプには「13 1 31」とあり、昭和13（1938）年1月31日に調製されたものであることが判明する。「国民精神総動員」の文字に加えて、平和の象徴であるオリーブをくわえた鳩が左下から順に日本、ドイツ、イタリアの当時の国旗で表現されており、昭和12



写真4

(1937)年11月にこの3国が日独伊防共協定を結んだことを記念した意匠であろう。ただし、ドイツ国旗となっていたナチス党旗の鍵十字が反転して漢字の「卍」になってしまっている点は見逃せない。すなわち、仮にこうした駅弁掛紙が軍部や政府の主導・強制によって制作されたものであれば、このような致命的な誤りが生じることはまずあり得ないことであろう。従って、こうした掛紙は各地の駅弁会社が自主的に制作し使用していた可能性が高いものと思われる。同一時期にこうした軍事色の強い駅弁掛紙を採用せず、旧来通り御当地の名所旧跡の風景を描いた駅弁掛紙を継続して使用していた駅弁会社が多数存在したことも、このことを裏付けている。

写真5は、昭和15(1940)年7月7日に名鉄立売組合連合会が敦賀駅ほかで一斉に発売した「御弁当」の掛紙である。銃剣を捧げる兵士の図柄に、「今日は支那事変勃発三周年に当たります時局愈重大なるの秋挙国一致新東亜建設に邁進するの決意を一層強固にすると共に出征将士の労苦を偲ぶ一端として本日に限り一菜主義に則つた簡易な弁当と致しました 昭和十五年七月七日」という文章が添えられている。また、その左右にも「出征将兵の労苦を偲びませう」「支那事変三周年」とあり、「支那事変」の3周年を記念して制作された掛紙であることが判明する。「支那事変」とは、日中戦争を指すこの当時の呼称であり、具体的には、昭和12(1937)年7月の盧溝橋事件以降の事態を指すものであった。

写真6は、新潟県・新津駅の「五目弁当」の掛紙である。調製日時のスタンプが押印されているものの、「調製時間6日前7時」という記載内容からは、年次は判然



写真5



写真6

としない。「停 三十銭」という価格表記により、昭和14(1939)年以降のものであることが判明するが、「代用食を愛しませう 一粒ものさずいたゞきませう」というスローガンに「代用食」の語があることからすれば、戦局が悪化した時期のものと考えられる。また、「五目弁当」の内容はここからは判然としないが、この当時、サツマイモの茎・桑の葉・蚕の蛹(さなぎ)・ワカメ・稲藁(わら)の粉末という五目弁当もあったようであり、今日、私たちが想像する五目御飯の「五目」とは大きくその内容を異にした「五目弁当」であったことは想像に難くない。

こうした駅弁掛紙を見た生徒は、これらが、今日の見た目にも美しく美味しい駅弁を演出するカラフルなデザインの新掛紙とは全く異質なものであることに、まず驚くであろう。そしてこれらが、決して軍部や政府の主導・強制によって誕生したものではなく、先にも述べたように、駅弁会社が自主的に製作したものであることを知ることが大切である。食料品をはじめとする日常生活の必需品の統制が日々進む中であって、軍部や政府の覚えがよいほうが、材料の調達等を考えると、会社の経営には有利であったであろうことは想像に難くないところである。各駅弁会社が自ら進んで軍事色の強い駅弁掛紙を用いたのは、自社の存続を図るための苦渋の決断の所産とみたほうがよいのである。戦争というと、軍部や政府の主導という図式が想起されがちであるが、実際には必ずしもそうではなく、市民の側もまた国策に呼応して結果として戦争の推進に自ら力を貸すことになってしまうこともあったのである。そして、このようなことこそが、本当の戦争の恐さであることを教師は生徒に伝えたいものである。

まとめにかえて

冒頭でも述べたように、歴史学は具体的な史・資料に基づいて歴史的事実(史実)を解明していく学問である。そのような中、近・現代史の場合には、小稿で取り上げた郵便切手、紙幣、駅弁掛紙のように、身近に存在する資料が、実に雄弁に史実を物語ってくれる。この他にも、当時の新聞や写真、そして人々が記した手紙や日記等をはじめとする様々な資・史料(教材)が現存している。生徒にしてみれば、ただ単に教科書を読むだけではなく、このような資・史料(教材)を用いて歴史を学ぶことにより、近・現代史を身近なものとして「実感」することが出来るのではないだろうか。従って、歴史の授業を担当する教師は、日頃からこのような教材を自ら渉

猟し、授業の中でどのように用いることが出来るのかを授業を通じて試行錯誤し続けることが必要であろう。小稿が、そのような教材研究、授業準備の参考となれば幸いである。

最後に、筆者が大東文化大学で担当した「社会1(歴史)」の授業を履修し、実際に様々な発表を通じて数多くの示唆を与えてくれた文学部教育学科の学生諸氏に、この場を借りて感謝したい。

註

宮内正勝ほか 1988年 『手に取る日本史教材—入手と活用』地歴社。

朝尾直弘ほか 1996年 『新版 角川日本史辞典』角川書店。

阿部 泉 1998年 『続 手に取る日本史教材—入手と活用』地歴社。

日本銀行情報サービス局 2007年 『お金の話あれこれ』

上杉剛嗣 2009年 『駅弁掛け紙ものがたり 古今東西 日本を味わう旅』けやき出版。

上杉剛嗣 2011年 『駅弁読本』榎(えい)出版社。

宮瀧交二 2015年 『駅弁掛紙から見た戦時下の民衆意識』『歴史地理教育』830号。

公財・日本郵趣協会 2016年 『さくら日本切手カタログ 2017』郵趣サービス社。